

順位	氏名（議席）	発言の要旨
2	望月 徹（11）	<p>1. 苗木から森林までを見守り、愛される遊歩道の設置を  一南富士カントリークラブの跡地利用について</p> <p>南富士カントリークラブが閉鎖することになり、本市は土地、建物を購入いたしました。そして、その敷地の多くを、富士山麓の環境保全や周辺の自然環境との共生を図るため、自然の復元ゾーンと自然との共生ゾーンに分け、それぞれ整備を実施することとなりました。このうち、自然の復元ゾーンの整備については、約16ヘクタールに保全措置事業地、CSR（企業の社会的責任）活動事業地、ブナ林創造事業地と大まかに分け、植林していく構想と聞いております。植林、育成、維持を進めていく中で、今から将来にわたり愛される自然の復元ゾーンとしていくため、提案を含め以下質問いたします。</p> <p>(1) 苗木の植付けから森林に育つ過程を見守っていく、自然の復元ゾーン全体にわたる遊歩道を当初の段階から計画に入れ、造っていくことを提案いたします。当局の見解をお伺いします。</p> <p>(2) CSR活動事業地については、誘致した企業が社会的貢献をしていること、その企業の従業員に愛着を持っていただくことなどの事業として展開していく構想を作成、提案していくことで誘致の促進につながると考えるが、当局の見解をお伺いします。</p> <p>(3) 自然の復元ゾーンに人が集まってくることは、自然との共生ゾーンでの事業に少なからず寄与するものと考えられます。その際、自然の復元ゾーンの維持管理に必要な資金の負担を、自然との共生ゾーンの事業者に求め、ランニングコストを減少させていく必要があると考えるが、当局の見解をお伺いします。</p> <p>2. アライグマ撲滅に市民の協力を得る対策強化を</p> <p>令和2年11月定例会において、アライグマ等野生動物駆除対策の促進について一般質問し、本市はそれを推進する立場から本市独自の補助金を交付することとし、捕獲を推進してきました。</p> <p>アライグマは1年間に5、6頭ほど出産しており、防除対策は猟友会を中心に実施されていますが、増加の一途をたどっています。一般市民からの通報で駆除できる仕組みを今、つくらないと、他市町で見られるような駆除が追いつかない状況に陥ると捉えます。撲滅に向けた対策強化が必要と考え、以下質問いたします。</p> <p>(1) 本市におけるアライグマの生息状況と今後の推移を把握されているか。  アライグマの撲滅が必要と考えるが、現状の取組でアライグマの撲滅を果たせると考えているのかお伺いします。</p> <p>(2) 令和5年4月、改正外来生物法が施行され、特定外来生物防除の役割を都道府県や市町村が担うことになりました。前回の市長答弁で、防除実施計画の策定については、県や近隣市、また、実施している自治体と情報交換を行いながら、調査・研究を進めていくとありました。その結果についてお伺いします。</p> <p>(3) 一般市民からの通報により箱わなを設置し、捕獲された情報を受けたら引き取り、その処分・処置までを対応する業者を出発する地域に設ける。そして、通報により捕獲できた場合、申請手続等の手間に見合う報酬を通報者へ出すことで、広く情報を得て、件数を増やすことで、撲滅につながれると考えるが、当局の見解をお伺いします。</p>

順位	氏名（議席）	発言の要旨
2	望月 徹（11）	<p>3. 地震への予防・安全対策について</p> <p>一原方池（人工池）の早期の安全対策を—</p> <p>本年1月、能登半島地震があり、災害が起きた後の惨状について改めて認識しております。</p> <p>本市は山、川、海と風光明媚な一面、自然災害に対し厳しい面もあります。本市で唯一の農業用ため池である原方池については、震度6程度以上の地震等の災害に対し、ハザードマップを作成し、注意喚起をしています。人工池ですので、予防・安全対策が可能と考え、以下質問いたします。</p> <p>(1) 原方池の安全対策をどのように実施していくのか、現状と今後の方策について、お伺いします。</p> <p>(2) いつ起こるか分からないのが地震です。少しでも早期の対策の実施が必要と考えるが、当局の見解をお伺いします。</p>